



Japan Environment Association

JEA NEWS

財団法人日本環境協会

ニュースレター No.38 2006年12月1日発行



地球温暖化について楽しく学ぼう！ 伝えよう！



ストップおんだん館は、子どもから大人まで地球温暖化について楽しみながら学べる体験型学習施設です。好評の「予約プログラム」のほか、年5回の展示替えや、対象者に合わせた様々なイベントなども行っています。

(関連記事 7ページ)

JEA NEWS No.38 目次

エコマーク	2・3	藤本倫子環境保全活動助成基金	6
世界のエコラベリングネットワーク (GEN)	3	環境NGO総覧	6
こどもエコクラブ	4	地球環境パートナーシッププラザ (GEIC)	6
我が家の環境大臣	4	グリーン購入ネットワーク (GPN)	6
スターウォッチング・ネットワーク	5	全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA)	7
環境カウンセラー	5	土壌環境保全対策事業	8
環境白書表紙絵コンクール	6	こども環境相談室	8

各事業のホームページは、協会トップページ (<http://www.jeas.or.jp>) から入ることができます。



エコマーク

◆「エコマーク事業に関するアンケート調査」およびヒアリング結果に基づいた制度の改善・改革

エコマーク事務局では、エコマーク認定商品保有企業の皆様を対象に本年8月に実施した「エコマーク事業に関するアンケート調査」およびヒアリングにおいて、皆様からいただいたご意見・ご回答の中から、早急に改善・改革すべきものをピックアップし、検討を進めてまいりました。

●エコマーク認定番号およびマーク下段表示の新基準での継続使用について

エコマーク事業は、環境保全に役立つと認められる商品に「エコマーク」を付けることで、環境から見た商品の情報を提供し、環境にやさしく暮らしたいと願う消費者が商品を選択しやすくすることを目的としています。

今回のアンケート調査において、認定基準の改定に伴うエコマーク下段の環境情報表示の変更についてお聞きしたところ、4割を超える方が「表示の改版にコストがかかる」と答えています。さらに「改版に費用・手間がかかるので順次エコマークの表示を外している」との意見もありました。

そのため今般、認定商品本体に「エコマーク」を積極的に表示していただくために、既認定商品が新Versionの基準に移行する際には、原則として旧基準での認定番号およびマークの下段表示も使用できることとしました。

本年10月19日付けで、認定基準を改定し、運用を開始しました。

※今後制定される新基準および2005年4月以降に制定された既認定基準に適用の規定

『エコマーク商品類型 No. ○○○「(商品類型名と有効期限を記載)」(該当する全商品類型を記載)の認定商品に限っては、本商品類型のマーク下段表示においても、これまでどおり前商品類型でのマーク下段表示およびその認定番号を記載することも可とする。』

改定日：2006年10月19日

今般、改善に向けた最初の取り組みとして、「エコマーク認定番号およびマーク下段表示の新基準での継続使用」、「既認定商品が新基準で再審査を受ける際の書類審査の軽減措置」の2点を実施することとしました。
→ <http://www.ecomark.jp/oshirase06018.html>

●既認定商品が新基準で再審査を受ける際の審査書類の軽減措置について

同アンケート調査において、エコマーク申込手続きについての設問を設けたところ、約半数の方が「証明書類を主要項目のみに限定するなど簡略化すべきである」と答えています。さらに、「初回審査時は仕方ないが、継続の場合は審査書類を省略するなど考慮してほしい」との意見も多数寄せられました。

そのため今般、第三者認証機関としての信頼性を損なわないことを念頭に置きつつ、既認定商品が新基準で再審査を受ける際に審査書類の軽減を図ることとしました。今回、下表の商品類型について、申込商品に変更がなく、新旧の基準内容に変更がない項目については、証明を省略できることを基準書に明記します。また、付属証明書においても、新規申込用／再審査用兼用のものを新たに整備し、申込企業の皆様の視点に立った制度の簡素化・効率化を推進します。

(改定日：2006年10月19日)

今後、他の商品類型についても、同様の措置を適用していく予定です。

類型番号	類型名	有効期限
112	文具・事務用品 Version1.4	2009.8.31
118	プラスチック製品 Version2.2	2010.8.31
123	再生材料を使用した建築用製品	2009.5.31
128	日用品 Version1.3	2009.6.30
130	家具 Version1.1	2009.6.30

◆国際協力活動：第6回日中韓環境産業円卓会議に参加

第6回日中韓環境産業円卓会議が9月26、27日に中国山東省煙台市で開催されました。

円卓会議では相互認証の前提となる認定基準の調和について検討を進めており、今回の会議のラベリング認証制度のセッションでは、今年3月に中国・蘇州で開催された第2回ワーキンググループ(WG)の合意を受けて、3ヶ国ラベル間の認定基準の比較作業について、報告がなされました。

今回の認定基準の比較結果をもとに、今後第3回

WGを開催し、共通基準案の作成に向けた具体的な議論を進めていくこととなりました。

エコマークニュース・メール版をお届けします！

エコマークニュース・メール版の登録は以下のサイトから行えます。最新基準や認定商品等のエコマークに関する情報やイベント情報をお届けしています。

http://www.ecomark.jp/eco_mail/index.html

◆調査報告：「エコマーク事業に関するアンケート調査」結果

エコマーク事務局では、エコマーク認定商品保有企業の皆様の視点に立った事業運営の改善をより一層推進していくことを目的として、本年8月に「エコマーク事業に関するアンケート」を実施させていただきました（送付数2,350、回答数794、回答率33.8%）。

①エコマーク取得のメリット（複数回答可）

メリットの有無・内容	%
イメージアップにつながった	49%
商品の売上アップにつながった	13%
期待ほどのメリットはなかった	32%
まったくメリットはなかった	4%
もともと期待していなかった	4%
わからない	16%

エコマーク認定取得のメリットとして、半数近くの回答者が「イメージアップにつながった」と答えています。一方「商品の売上アップにつながった」との回答は13%で、企業活動全般への間接的なメリットが、より大きいことを示す結果となりました。

③第三者認証による厳格さや信頼性を確保するために 認証審査手続きが複雑で書類が多くなることに対する 考え

認証審査手続きに対する考え	%
エコマーク制度の信頼性確保のために、現行の審査書類数量はある程度理解できる	45%
認証審査手続きを簡素化（自社宣言の証明を増やすなど）しつつ、第三者認証としての信頼性確保は可能であると思う	35%
認証審査手続きの複雑さと第三者認証の厳格さは別問題であり、エコマーク制度に対する信頼性とは無関係である	14%
その他	3%

「エコマーク制度の信頼性確保のために、現行の審査書類数量はある程度理解できる」の回答率が45%となっており、現行の審査書類に対して、一定の理解が得られているものと考えられます。一方「認証審査書類手続きを簡素化しつつ、第三者認証としての信頼性確保は可能」という意見も35%に達しており、審査手続きの簡素化を望む声も多いことがわかりました。

◆国際協力活動：GEN総会に参加

2006年10月20、21日に韓国ソウルで世界エコラベリング・ネットワーク会員年次総会（GEN総会）が開催されました。

総会に先立って行われたワークショップでは、現在のGENの活動のレビューを行った上で、今後力を入れていくべき分野、GENの長期的ビジョンと目標をディスカッションし、総会では上記内容を反映させて今後の活動プランを立案しました。

エコマーク取得保有企業の皆様には、本アンケートへのご協力ならびに貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

以下に調査結果の概要をご紹介します。

②認定基準の改定時にマーク下段の環境情報表示の変更が必要になる場合の対応や考え（複数回答可）

対応/感じている点	%
表示の改版にコストがかかる	41%
環境情報表示は複雑なので若干の誤りなどはやむを得ないと思う	12%
環境情報表示は必要だが、認定基準の改定毎に表記や表現内容を変更する必要はないと思う。	43%
認定基準の改定毎に改版しなければならないので、商品本体やパッケージにはエコマークを表示しない。	7%
表示内容等に関わらず、もともとエコマークは表示しないことにしているので特に問題はない	4%
その他	6%

4割以上の回答者が「表示の改版にコストがかかる」、「環境情報表示は必要だが、認定基準の改定毎に表記や表現内容を変更する必要はないと思う」と回答しており、認定基準改定に伴う表記変更などに関し、多くの企業が負担に感じていることを示す結果となりました。

世界のエコラベル

～GEN会員機関紹介～No.10

環境マーク

「環境マーク」は韓国のエコラベルです。1992年に設立され、制度設立10周年を機にラベルのロゴを一新し、ラベルの表記言語も国際化を意識し、「KOREA ECO-LABEL」にしました。また2005年、韓国国内におけるグリーン購入法施行により、認定数も伸びています。

日中韓環境産業円卓会議の基準の共通化の検討や相互協力の合意において、エコマークや中国環境表示計画と協働しています。さらにエコマークとは相互認証を行っています。



設立年：1992年

運営主体：韓国エコプロダクツ協会
(KOECO)

商品類型数：111 (2006年7月現在)

認定商品数：4,000 (同上)

企業数：930

URL：<http://www.koeco.or.kr/>



こどもエコクラブ



■こどもエコクラブ全国フェスティバル in よこすか■

2007年3月24日（土）、25日（日）に神奈川県横須賀市でこどもエコクラブ全国フェスティバルが開催されます。全国のこどもエコクラブのメンバーたちが一堂に会して交流を深めるとともに、こどもエコクラブ事業をはじめとする環境保全活動の定着拡大を図る、年に一度のフェスティバルです。2日目には一般参加プ

ログラムが設定され、全国からのこどもエコクラブが一年の活動をまとめた壁新聞を展示するほか、多数の企業・団体ブースが出展され、環境に関するいろいろな学習や体験ができます。是非ご参加下さい。



7月25日、よこすか芸術劇場で開催されたプレ大会「こども環境シンポジウム」の様子

日程：2007年3月24日（土）、25日（日）
会場：24日・よこすか芸術劇場（ヨコスカ・ベイサイド・ポケット）
25日・長井海の手公園ソレイユの丘
主催：環境省、神奈川県、横須賀市、（財）日本環境協会

■パートナーシッププログラムにご支援ください■

こどもエコクラブの活動がより広く展開しさらに充実するように、全国の企業・民間団体等からさまざまな支援をいただいています。それらの支援を総称して「こどもエコクラブパートナーシッププログラム」と言います。

- ・企業・団体の実情に応じた支援の形をご提案していただけます。
- ・多くのこどもエコクラブ関係者に、企業・団体が取り組む環境・社会貢献活動を知っていただくことができます。

現在実施されているプログラムはこどもエコクラブHPで紹介しています。新たなご支援・ご協力をお待ちしております。

～パートナーシッププログラム「新日本石油製油所見学会（根岸製油所）」～

工場内の見学をしたり、石油の基礎知識・製油所や商品の知識をビデオやパネル等で学習できます。また、根岸製油所ではオリジナルのろうそく作りもできます。



こどもエコクラブ

全国事務局TEL：03-5114-1251

HP：<http://www.env.go.jp/kids/ecoclub/>

我が家の環境大臣



我が家のイチオシ・エコライフを“eco宣言☆”にしよう！

全国の家庭で実践しているエコライフの楽しい様子、オススメの取組みなどをスローガンにした“eco宣言☆”を募集しています。250文字程度のミニレポートをつけてぜひ応募してください。有識者等による審査会を通じて、ユニークな作品、他のファミリーでも実践しやすい作品などには環境大臣からの表彰が！また、協賛企業からの素敵な賞品もあります♪応募はハガキによる郵送、FAX、電子メールのいずれでもOK☆ たくさんのご応募お待ちしております！

募集締切：2007年2月11日（日）

エコライフサポーター派遣 申請受付中!

我が家の環境大臣登録団体向けに、環境カウンセラーをはじめとする環境に関する専門知識を持つ方を派遣しています。研修会講師、イベントでの講演など、団体の要望にあわせたエコライフサポーターが活動をサポート！ぜひご申請ください。



昨年の派遣の様子

我が家の“eco宣言☆”の詳細・応募方法等、エコライフサポーター派遣の申請など、様々な情報をエコファミリーウェブサイトでご紹介しています。ぜひアクセスしてみてください！

エコファミリーウェブサイト ⇒ <http://www.eco-family.jp/>



平成18年度冬期

全国星空継続観察に参加しよう

環境省では毎年、夏と冬の2回、肉眼や双眼鏡、カメラを用いて、星の見え方を調べてもらう全国星空継続観察を実施しています。平成18年度冬期の観察実施期間等は下記の通りです。誰でも参加できますので、多くの方のご参加をお待ちしております！

観察実施期間：平成19年1月8日(月)～1月21日(日)

観察方法：

- ①肉眼による天の川の観察
- ②双眼鏡を用いたすばるの観察
- ③星空の写真撮影

参加申込：各都道府県・政令指定都市・中核市の
大気環境担当部局までお問い合わせ下さい。

詳細については、ホームページからご覧いただけます。

→ <http://www.env.go.jp/kids/star.html>

コラム：冬の夜空にちりばめられる宝石たち

～ふたご座流星群と四分儀座流星群をみてみよう！～

木枯らしが吹き始めると、夜空の星たちの輝きが一層増します。その理由は空気が乾燥し透明になるからです。では、この季節に眺めることができる流星群をご紹介します！

まず、12月の中旬（11日～14日）には、ふたご座から放射状に出現する流星群が夜半過ぎに見られます。この流星群は、ほぼ毎年かなりの数が出ることが知られていて、多くの天文ファンがこの時期夜空を見上げます。さらに1月4日頃には、四分儀座（現在の竜座）流星群が夜半過ぎに見えるはず。月があると、暗い星は見難くなりますが、それでもこれらの流星を一度体験してみたいはかがですか。

その他にも、都会の灯火に照らされた夜空と田園地方の夜空とを比べて、都会の夜空がどんなに明るいか、比べてみるのもよいですね！



環境カウンセラー

●環境カウンセラー活動紹介No.13

NPO法人環境カウンセラー全国連合会（ECU）

NPO法人環境カウンセラー全国連合会（ECU）では、去る9月21日に、環境カウンセラー制度の創設10周年とECU設立5周年の記念フォーラム・式典を、東京都北区滝野川会館で開催しました。フォーラムでは、ECUの先崎武理事長、西尾哲茂環境省総合環境政策局長の挨拶に続いて、小澤紀美子東京学芸大学教授が「持続可能な社会づくりに向けて」と題して基調講演。事例報告とパネルディスカッションでは、竹内恒夫名古屋大学教授をコーディネーターにして「地球環境問題へのアプローチ」をテーマに、充実した討議が行われました。式典では、環境カウンセラー活動の功労者に対して、感謝状、功労賞、功績賞が贈られました。



●環境カウンセラー活動紹介 No.14

香西邦信さん（高知県） 夏休み子供体験学習

NPO法人「いきいきみはら会」と共同で地域の子ども達を集めた炭焼き体験学習を行いました。体験学習では、ダム流木等を使った炭焼き体験の外、その炭を使って、地元の人が持ち寄った食材でバーベキューを行い、海や山の幸を堪能しました。環境学習では、ダム見学会も行われ、自然の大切さや資源の有効利用など、人と自然との共生の重要性やダムの果たす役割を学びました。



環境カウンセラーホームページ

→ <http://www.env.go.jp/policy/counsel/>

平成19年版 環境白書表紙絵コンクール作品募集

あなたが望む未来の地球は、どんな姿ですか?環境省では、「環境にやさしい社会」をテーマにみなさんの思い描く作品を募集しています。入賞作品は、平成19年版の環境白書の表紙や環境月間のポスターになります。みなさんの明るく・楽しい作品を待っています。

部門は、①小・中学生の部、②一般の部（高校生以上）。各部門の最優秀作品には、環境大臣賞が贈られます。

○ 締切 平成19年1月31日（水）(当日消印有効)

【応募・問い合わせ先】

(財)日本環境協会内 環境白書表紙絵係

〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-9 ダヴィンチ神谷町2F

TEL: (03) 5114-1251

詳細については、ホームページからご覧いただけます。

→ <http://www.jeas.or.jp/topics/060815.html>

藤本倫子環境保全活動助成基金

—平成18年度助成先が決定しました—

藤本倫子環境保全活動助成基金の平成18年度助成交付先が決定しました。個人18件、団体66件の申請のうち、個人5件、団体15件に対し助成金を交付しました。これらの助成先については、ホームページでご紹介しています。なお、平成19年度募集については、12月中旬、ホームページでご案内いたします。

→ http://www.jeas.or.jp/activ/prom_h18/prom_h18_00.html

新刊書「平成18年版 環境NGO総覧」を発行しました

平成17年度に調査を行った全国の民間環境保全活動団体（環境NGO）4,463団体を収録しています。所在地、活動内容、参加方法など詳細な情報を掲載しており、環境保全活動への参加を促進するとともに、環境NGO活動の推進を目的としています。ぜひご活用下さい。

監修:独立行政法人環境再生保全機構

編集:(財)日本環境協会

冊子版:3,000円 CD-ROM版:1,000円

【問い合わせ先】 (財)日本環境協会 出版物担当

「エコプロダクツ2006」に出展します!

地球環境にやさしい製品・サービス(=エコプロダクツ)や、環境に対する取り組みを紹介するエコプロダクツ展が、12月14日(木)~16日(土)、東京ビッグサイトにて開催されます。今年は、エコマーク・GPN・ストップおんだん館が出展します!入場無料ですので、ぜひ一度足をお運びください。

→ <http://eco-pro.com/>

地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)

~開設10周年を迎えた

地球環境パートナーシッププラザ~

地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)は、今年10月に設立10周年を迎えました。

開設の翌年には、京都で第3回気候変動枠組み条約締約国会議(COP3)が開催され、国際舞台で活躍する環境NGOが注目されました。1998年には特定非営利活動促進法が施行され、NPOと行政のパートナーシップを前進させる原動力となりました。一方、企業関係では、グリーン購入法制定、環境マネジメントの規格化、コンプライアンスや社会的責任を求める動き等がありました。環境分野におけるパートナーシップでの取組みを巡る状況は激変しています。環境パートナーシップ支援事業も、こうした社会的な状況の変化に対応しなくてはなりません。

そこでGEICでは10周年記念として、環境パートナーシップに関わる幅広い人々に参加していただき、環境パートナーシップのこれまでの10年と、今後のあるべき姿について議論を行い、これからのパートナーシップ促進事業の在り方を考える連続ワークショップを開催しました。「NPO/NGO」、「中間支援組織」、「企業」、「地方自治体」、「地域づくり」そして「アジア地域」というテーマで開催し、最後にこれまでの議論をまとめる国際シンポジウムを行います。詳しい情報はGEICのホームページをご覧ください

→ <http://www.geic.or.jp/geic/>

グリーン購入ネットワーク(GPN)

グリーン購入法5周年記念フォーラムが開催されました

2001年4月にグリーン購入法が施行されてから今年で5年が経過しました。これを記念して、グリーン購入の発祥の地である滋賀県において、10月26日「グリーン購入法施行後5年 いま、私たちは何をめざすのか?」をテーマにグリーン購入法5周年記念フォーラムが開催され、環境省による基調報告「グリーン購入法の5年の成果と今後の展望」やトークセッションなどを行いました。

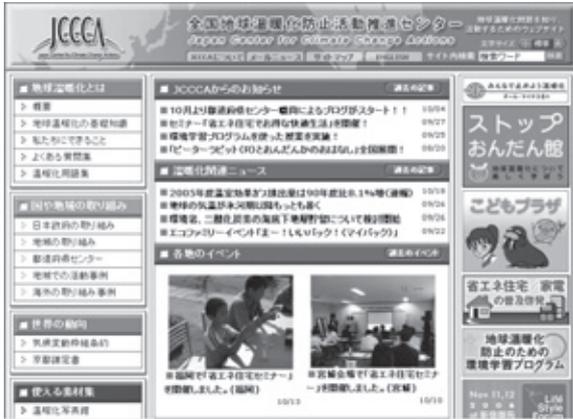
グリーン購入法により環境配慮製品の市場への普及は一定の成果をあげており、グリーン購入の取り組みは、国や県、大手企業など組織購入者においては非常に一般的な活動になっています。その一方で市町村などの小規模自治体や中小企業、一般の消費者には十分に普及していないという課題も残されています。

このフォーラムでは、今後、一層のグリーン購入を推進するために、自治体や企業自らが実践することはもちろん、地域の企業や消費者にグリーン購入浸透を図る立場である自治体が果たすべき役割や地域でグリーン購入を普及する地域ネットワークの活動について、様々な意見が出されました。

全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)

ウェブサイトリニューアルしました!

<http://www.jccca.org/>



開設以来、随時コンテンツを追加・充実させ、多くの情報を蓄積してまいりましたが、この度、構成を見直してわかりやすいサイトにしました。また、地球温暖化について学べるだけでなく、地域で地球温暖化防止の普及・啓発活動をされる方に活用していただける素材や事例を大幅に充実させました。写真・イラスト・図表等を、ダウンロードして冊子やプレゼンテーションにご利用いただけます。

従来からご好評いただいている

- ・温暖化写真館
- ・すぐ使える図表集

に加えて次のような素材や活動事例を追加しました。

素材:

- ・省エネ住宅・省エネ家電ファクトシート
- ・地球温暖化ファクトシート
- ・環境学習プログラム
- ・地球温暖化パネル



活動事例:

- ・NPOの二酸化炭素排出抑制事業
- ・省エネ住宅・省エネ家電普及啓発事業
- ・環境学習推進事業
- ・海外の取り組み事例



地球温暖化について知りたい方、温暖化防止活動をされている方、教える立場の方、是非アクセスしてみてください。皆さまのご意見をお待ちしています。

エコ・スタンプラリーを開催します

12月は地球温暖化防止月間です。環境省と全国地球温暖化防止活動推進センターでは、首都圏の環境学習館を巡るエコ・スタンプラリーを、11月25日(土)～翌年1月14日(日)の間、主催しています。参加する館は、当センターの「ストップおんだん館」をはじめ、東京電力の「電力館」、東京ガスの「環境エネルギー館」と「がすてなーにガスの科学館」、松下電器産業の「パナソニックセンター東京」、キリンビール横浜工場の「キリン横浜ビアビレッジ」、東芝の「東芝科学館」のほか、12月14日(木)～16(土)に東京ビッグサイトで開催されるエコプロダクツ展が3日間に限り特別参加します。

詳しい内容は、次のURLでご確認ください。

<http://www.jccca.org/ondankan/>

6館以上回ればipod nano、4館以上では電子辞書、2館以上でエコモニ。のオリジナルエコバッグか図書カード(1,000円分)が当たります。エコ・スタンプラリーで、楽しく環境問題を学びましょう。みなさまの参加をお待ちしています。



全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)

ストップおんだん館

「くるくる・つくーる」開催中!

エコグッズを作って地球のことを考えよう! 夏休みに実施して好評をだった工作ワークショップ、「くるくる・つくーる」。秋からは月1回のシリーズとして開催しています。12月は、9日(土)と22日(金)の2回実施。9日(土)は小中学生を対象に、自分で絵柄を作るオリジナルえこてぬぐいを。22日(金)はクリスマス企画! 大人の方を対象に、キャンドルナイトを演出する素敵なキャンドルホルダーを作ります。エコグッズを手作りして、今すぐできること、あなたもはじめてみませんか?



<http://www.jccca.org/ondankan/event/>

土壌環境保全対策事業

～2006年 土壌汚染対策セミナー開催報告～

『土壌汚染とリスクコミュニケーション ―環境コミュニケーション成功の鍵を考える―』
環境省と協会主催による土壌汚染対策セミナーを大阪市および北九州市の2会場にて開催いたしました。

セミナーでは、土壌汚染発見後のリスクコミュニケーション成功の鍵をテーマに、環境省から土壌汚染対策の状況報告とリスクコミュニケーションに関わる講師を各会場4名迎え、さまざまな視点からご講演いただきました。現状や事例を挙げながらの講演は、参加者の方々にわかりやすく、円滑なコミュニケーション実施の参考になったように思われます。



○ 10月13日(金) 13:30～16:50 大阪市 大阪マーチャンダイズ・マート展示Cホール
後援：大阪府、大阪市、(社)日本経済団体連合会、(社)土壌環境センター

【特別報告】最近の土壌汚染対策について 環境省 水・大気環境局土壌環境課長 坂川 勉	【特別講演(環境漫才)】 環境カウンセラー 林家ライス・カレー子 氏
【講演①】不動産売買とリスクコミュニケーションについて (財)日本不動産研究所 環境プロジェクト室長 廣田 裕二 氏	【講演③】リスクコミュニケーションの実施事例について (株)大林組 東京本社 土木技術本部 環境技術第一部長 峠 和男 氏
【講演②】土壌汚染対策技術とリスクコミュニケーションについて 東京農工大学教授 細見 正明 氏	【講演④】行政におけるリスクコミュニケーションのあり方について 大阪市 都市環境局理事兼環境部長 光岡 和彦 氏

○ 11月17日(金) 13:30～16:50 北九州市 北九州国際会議場
後援：福岡県、北九州市、(社)日本経済団体連合会、(社)土壌環境センター

【特別報告】最近の土壌汚染対策について 環境省 水・大気環境局土壌環境課長 坂川 勉	【特別講演(環境漫才)】 環境カウンセラー 林家ライス・カレー子 氏
【講演①】不動産売買とリスクコミュニケーションについて (財)日本不動産研究所 環境プロジェクト室長 廣田 裕二 氏	【講演③】リスクコミュニケーションの実施事例について (株)大林組 東京本社 土木技術本部 環境技術第一部長 峠 和男 氏
【講演②】土壌汚染対策技術とリスクコミュニケーションについて 上智大学教授 中杉 修身 氏	【講演④】行政におけるリスクコミュニケーションのあり方について 北九州市 環境局環境監視部長 入江 隆司 氏

子ども環境相談室

～相談員の紹介～

漆原敏之 (うるしばら としゆき)

「専門分野」環境マネジメント・監査、廃棄物、化学物質、環境教育、自然観察(植物、鳥、水生生物、昆虫、星空等)、森林保護、森林保護以外の自然保護、市民活動、町づくり、消費者教育、地球環境問題



大学で30年以上にわたり微生物学、ウイルス学、公衆衛生学を分担担当するかたわら、環境管理部門すべてを任されてきました。その守備範囲は化学物質、清掃、廃棄物、建物の環境衛生、キャンパスの環境、環境マネジメントなど、多岐にわたりました。一方地域では、学校授業の支援、子どもから大人までの環境学習支援、自然観察会や環境リーダー養成講座の企画・運営や講師など、さまざまな環境保全活動を実践しています。こうした経験をとおして培ってきたノウハウを生かし、子ども環境相談室で役立ちたいと願っています。

諸頭達夫 (もろとう たつお)

「専門分野」汚水処理、廃棄物管理など



私は、これまで公共事業関連のコンサルタント業に従事してきました。この度、当財団の子ども環境相談室の相談員として週1回詰めております。子ども達の相談に対して、先輩たちに助けられ対応をしているのが現状です。専門が汚水処理、廃棄物管理などですが、子ども達に理解できる言葉に置きかえることの難しさに直面しています。当面の課題は、小学生が習っている事柄を理解することと考えています。

編集・発行／財団法人日本環境協会

URL:<http://www.jeas.or.jp> e-mail:jea@japan.email.ne.jp

■麻布台オフィス

〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-9 ダヴィンチ神谷町2F

TEL.03-5114-1251 FAX.03-5114-1250
(協会)
(エコマーク事務局 認証課) TEL.03-5114-1253 FAX.03-5114-1257
(エコマーク事務局 基準課、普及課、国際協力課) TEL.03-5114-1255 FAX.03-5114-1257
(全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCEA)) TEL.03-5114-1281 FAX.03-5114-1283
(ストップおんだん館) TEL.03-5114-1284 FAX.03-5114-1285
(子ども環境相談室) TEL.03-5114-1258 FAX.03-5114-1250

■青山オフィス

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F

(グリーン購入ネットワーク事務局(GPN)) TEL.03-3406-5155 FAX.03-3406-5190

■地球環境パートナーシッププラザ

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F

(GEIC) TEL.03-3407-8107 FAX.03-3407-8164



エコマークは
(財)日本環境協会の
登録商標です。